中国における法華経の信仰形態（一）
——法華伝記——

的場慶雅

中国における多くの法華経信仰説話集の全てを網羅し、総括した上での信仰形態の研究は今までには皆無である。そこで、最終的には全体を俯瞰し結論付けることを目的として、今回から数次に亙ってこれらの信仰説話集を一つ一つ検討し、順次論述する所存である。さて、本論文においては、まづ「法華伝記」における法華経信仰の実態を把握し考究することを研究課題とする。

1、晋…計十一例。

誦法華＝五例。死体が腐敗しない…二例。奇香が臭う…一例。虎が去る…一例。夢で天童子が兜率天に生まれると言う…一例。講法華＝二例。異香が薫る…一例。華が降る…一例。天地が動く…一例。誦観世音＝四例。火災を免かれる…一例。王難解脱…一例。水難解脱…一例。

2、魏…計三例。

誦法華＝二例。誦観世音＝一例。観音菩薩の示現…一例。

3、宋…計二十例。

誦法華＝五例。法華題目を誦したら地獄が涼地になった…一例。臨終の時異香が満ち空中に音楽…一例。臨終の時異光…一例。講法華＝二例。写法華＝二例。蘇生した…一例。誦観世音＝五例。洞窟の中で迷ったが助かる…一例。刀杖難解脱…一例。枷鎖難解脱…一例。王難解脱…一例。治病…一例。誦薬王菩薩品＝三例。焼身供養…三例。普賢菩薩＝三例。示現…二例。普賢斎により瑞応あり…一例。

4、斉…計十三例。

誦法華＝七例。焼身供養…一例。写法華＝三例。持法華＝一例。土を掘ったら舌が現われ、生きているように赤かった…一例。講法華＝一例。弥勒＝一例。夢で兜率に弥勒が示現…一例。

5、梁…計八例。

写法華＝一例。蘇生…一例。誦観世音＝三例。示現…一例。治病…一例。普賢菩薩＝一例。示現…一例。誦薬王品＝一例。焼身供養…一例。誦薬草喩品＝一例。雨を降らす…一

例。文殊師利＝一例。示現…一例。

6、陳…計七例。

誦法華＝三例。抜けた歯が生えた…一例。臨終の時異香が満ち音楽が聞こえる…一例。写法華＝一例。修法華＝一例。普賢菩薩＝二例。夢に示現…一例。普賢懺により華が降る…一例。

7、隋…計三十例。

誦法華＝十四例。蘇生…二例。死後も舌の色が紅…一例。猿が第二天に生れる…一例。臨終の時紫雲が空を覆う…一例。焼身供養…一例。治病…一例。虎が去った…一例。写法華＝四例。聞法華＝一例。犬が天に生じた…一例。講法華＝一例。臨終の時地震おきる…一例。誦序品＝一例。華が降る…一例。誦方便品＝一例。延寿を得る…一例。弥勒＝一例。夢で兜率に弥勒が示現…一例。文殊師利＝二例。示現…一例。誦寿量品＝一例。盲が治る…一例。誦観世音＝三例。臨終の時来迎…一例。誦薬王品＝一例。苦行をした…一例。

8、唐…計五十九例。

誦法華＝二十五例。蘇生…三例。死後も顔色が変わらない…二例。死後舌が腐らない…二例。鳩が人間に生まれ変わる…一例。虎が去る…一例。夜叉が守護し異光あり…一例。空中に大光明あり華が降る…一例。大光明を見釈迦牟尼仏示現…一例。焼身供養…一例。臨終の時紫雲現わる…一例。臨終の時空から管絃の音…一例。写法華＝九例。蘇生…一例。夫が天に生まれる…一例。母が地獄から救われた…一例。臨終の時異香が室に満ちた…一例。造法華＝三例。夫が蘇生する…一例。講法華＝七例。華が降った…二例。地が動く…一例。香気が異様…一例。猿が忉利夫に生まれる…一例。疏が焼けなかった…一例。夢に夜叉が現われ敬礼した…一例。講序品＝一例。冥途で講じ蘇生…一例。誦提婆品＝二例。提婆品を踏みつけて暴死した女が足に付いていた経文によって蘇生…一例。僧に愛染心の娘改心する…一例。誦寿量品＝一例。蘇生…一例。誦薬王品＝一例。焼身供養…一例。誦観世音＝二例。王難解脱…一例。水難解脱…一例。普賢＝五例。夢に示現…三例。示現…一例。兜率＝二例。兜率天に生まれることを望む…一例。兜率天で智者大師に会う…一例。文殊師利＝一例。冥途に文殊師利が来て助かり蘇生した…一例。

以上を、法華信仰をA、各品及び菩薩等の信仰をB、晋から陳までをC、隋及び唐をDとして若干のまとめを次に記す。

一、AとBは百例と五十一例で二対一の比率でAが多いが、霊験談ではAが五十九例、Bが四十五例で、Bに霊験談がかなり多い。これは、Aの信仰形態は、霊験を得るよりも真摯なる悟りへの道としての信仰が多く、Bの信仰形態は、信仰に伴なう利益を自らへの見返りとして期待した結果とも言える。Aでも霊験談のうち四十例がDに集注しており、Dの特

徴となっている。

二、誦法華は計六十一例中四十一例に霊験談がある。故に誦法華はBに近い状態と言えよう。又誦法華には薬王品による焼身供養と思われる例が三例あり、誦法華と書かれていても法華経全体を読んでの信仰か疑問のものもある。誦法華には死体が腐敗しない等の六根不壊の信仰はCに三例Dに五例あるが、Dになると始めて蘇生が五例登場する。六根不壊は奇異なことではあるが蘇生の方がより現世利益的であるからDを過渡期として増すと思われる。

三、BがCに二十七例と多いのは観音信仰が晋から始まって十二例もあるからで、DにもBが二十四例あるが観音信仰は極めて少なく五例しかない。これは一昨年発表した拙稿「隋唐代における観世音菩薩の信仰形態」において六十二例を数えたのに比しても極端に少ない。当時観音信仰が高王観音経と相俟って法華信仰から独立し、法華信仰と同等な地位を確立していたので「法華伝記」では意識的に省略したのかもしれない。或いは現在には伝わっていないが「観世音応験伝」に続く霊験記が存在してそこに一括して集録されていたのであろうか。又三十四の変化を現わして衆生を救済する妙音菩薩の信仰は全くない。観音信仰に吸収されてしまったのだろうか。

四、Dには序品・方便品・提婆品・寿量品の信仰例が新しく現われている。法華経信仰が細分化され、それぞれが求める利益に合った部分のみの信仰が行なわれる前兆であろう。

五、普賢菩薩信仰は宋以後に十一例あり、霊験としては示現が四例、夢に示現が三例とただ単に示現するのみである。この例は全て僧によるものであり、修行している僧を守護するという普賢菩薩の誓願による信仰形態であり、一般には流布しなかったようである。

六、弥勒の兜率上生も五例あり、弥勒下生経に依らずに法華信仰に依ったものである。

以上記した如く、「法華伝記」における法華経の信仰形態は、法華経に依って悟りを得る為に修行をする糧と言うよりも、殊に隋唐代では顕著に、それぞれの欲する現世利益の霊験によって尊信し讃仰されていたことは明白である。

（立正大法華経文化研究所研究員）

新刊紹介

長部和雄著
「唐宋密教史論考」
神戸女子大学東西文化研究所叢書　第Ⅰ冊
A5判・本文三二七頁・定価六〇〇〇円
永田文昌堂・一九八二年二月一〇日刊